

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0290100569		
法人名	株式会社光仁介護サービス		
事業所名	まちだホーム青森 1階		
所在地	青森市大字羽白字沢田46番地2		
自己評価作成日	令和3年11月22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	令和3年12月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当法人の経営理念は「医療」「介護」を通じて地域社会の皆様へ、特に高齢の皆様により快適な生活を提供することを目的としております。御利用者様が馴染みの地域で、馴染みの生活を断つことなく安心・快適に暮らして頂けるように、又、地域社会に根付いた活動を目指し職員一同サービスを提供しております。御利用者様の心身状況を踏まえ、御利用者様の方、それぞれの役割を持って家庭的な環境で日常生活を送って頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

コロナ渦においても、「医療」「福祉」と連携し外出支援や面会など制限なく、利用者が快適に楽しく生活されている。高齢者の困りごとがあれば困りごと相談先として対応するなど地域社会に根付いた活動をされている。経営理念とまちだホームのモットーとして「自由・活発・対話」とサブタイトルがあり理念を振り返りながら、場面に合わせてその人のペースに沿ったケアをするよう職員一同実践に努めている。また、重度化や終末期の方針があり、医療機関やまちだグループの施設等での情報を共有され、利用者の健康管理をはかりながら、本人・家族の希望に添えるように医療機関と連携を図り、体制を整えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念が、医療、介護を通じて地域社会に貢献する。朝礼、会議等で職員に徹底を試みております。	理念は見やすい場所に掲示している。毎日の朝礼会議等で唱和し意識付けがなされている。まちだホームのモットーとして「自由・活発・対話」とサブタイトルがあり理念に振り返り、場面に合わせて利用者のペースに沿ったケアをするよう実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会と連携をとり、町内の行事等に参加したりホーム行事に参加して貰い交流をしております。	コロナ渦においても、医療機関と連携を図り、買い物や会食以外の行事を開催し、町内会のゴミ拾いに職員が参加されたり、敷地内を日常的に散歩し、近隣の方々と交流がある。高齢者の困りごとがあれば困りごとの相談先として対応するなど、日常的に関わっており交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣住民と挨拶、談笑し、地域住民に認知症の理解、支持を求めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、コロナウイルス感染予防の為、会議が出来ないので、書面にて運営状況を関係各位に連絡し、意見を頂き、サービス向上に繋げています。	新型コロナウイルス感染防止の為、書面での会議を2か月に1回定期で開催している。利用者やサービスの実態、評価への取り組み状況等についての資料を発送し、郵送で意見や情報を頂く工夫をしている。感想や意見はサービス向上に活用している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じて、管理者・担当者がその都度、電話連絡や足を運び、市の担当者と連携を取り、サービスの質の向上に努めています。	グループホームの実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えている。また、不明な点などは、直接担当者が電話や訪問などで相談し、市の担当者と連携をはかりサービスの質の向上に活かされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し、身体拘束等適正化の為の指針を元に身体拘束委員会を年4回、実施しております。年2回、職員に研修会を実施しております。身体拘束をしないケアに取り組んでおります。	身体拘束委員会を設置し、内部研修を年2回開催し、身体拘束の弊害について理解を深めている。医療機関や市の担当者からも積極的に情報を頂く等し、禁止の対象となる具体的な行為を理解し、身体拘束をしないケアに取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し、指針を元に虐待防止委員会を年2回、実施しております。年2回職員に研修会を実施し、虐待はあってはならないという意識を職員一人ひとりが持って防止を努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の社内研修を行っています。人権・自己決定の取り扱い等について各ケースごとにOJTを行っています。権利擁護や成年後見制度について必要に応じて、情報提供をしております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約は利用者様と家族との最初の共同作業であると考え、必要書類について十分に説明を行い、家族等からの質問にも丁寧に答えながら確認し、書面にて契約書を取り交わしております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議において家族代表者に施設の運営と改善点や要望についての意見を頂いている。面会時や電話等で家族の意見を聞く機会を作っております。	家族には、面会時や面会に来られない方に電話や手紙などで近況を報告し、意見や要望等うかがっている。利用者の日常会話や態度等から、要望等を察した時には、積極的に話しかけ、思いや希望を引き出すように支援されている。また、出された意見や苦情については、随時、管理者・職員間で話し合い、対応策を運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を行い、職員からの意見、提案を聞く機会を設けております。必要時には、個別面談の機会も作っております。	管理者が中心となりカンファレンスや職員会議等、日々のコミュニケーションを通して、職員が意見を伝えやすい環境作りに努めている。物品の整備、環境のチェックなど業務内容の改善に繋がり、意見等が反映される取り組みがされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の生活背景を理解し、勤務時間の調整など就労環境の整備に努めています。個別目標シートや個別評価を実施し、適切な評価を行いやりがいのある職場環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が自ら研修計画を策定し、自己研鑽を図る取り組みを行っています。施設の内部研修は、全体計画に基づいて行われております。困難事例等の状況を話し合い日々、支援方法や対応方法を全員で把握し、取り組み出来るようにしております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修を積極的参加させております。職能団体の研修や会合に参加し、他の事業所の方と情報交換を行い、参考点は積極的に取り組んでおります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の情報を元に、本人からの話を日々傾聴し性格などを把握した上で統一したサービスを提供し出来るよう、職員間で情報を共有し不安なく生活出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に、家族の不安や要望等の思いを気兼ねなく語る機会を作り、良好な関係構築に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを十分に行い、職員と課題分析を行っている。ニーズを見極め、適切な対応が行える様に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の身体状況に合わせて、食器拭き洗濯物を畳んだりして頂いています。その他の作業する中で会話しながら、生活空間を支えあう関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様に面会や電話にて施設での生活状況や課題などを報告・相談し共に本人を支えていく関係作りを努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の日頃の表情、言動に注意し心理状態を確認しながら、家族、友人の訪問依頼、自宅訪問などを行い家族と一緒に過ごして貰う時間を大事にしております。	医療機関と連携を図り健康管理をしながら、窓越しでの面会や家族、特定の友人の訪問依頼や、自宅への外出などを行い馴染みの場所や関係性が途切れないように取り組んでいる。利用者の意向を確認し、自宅を見に行くなど支援がなされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブル席、居室の配慮を行い、個々の性格日々の精神状態、気分を把握した状態で毎日の生活状態を見守っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も気軽に、来所して頂けるよう関係作りをしております。必要に応じて本人、御家族様の相談や支援をしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランを作成する時には、意向確認がはつきりしている方は、聞き取りをしている。本人意向が出来ない場合は、御家族、後見人等から普段の情報を聞き取り、本人の意向に努めています。	「対話」を大切にし居室を訪問し直接本人と話したり、ソファに座っている時にさりげなく聞き取りしている。会話中に表情も注意して観察するようにし、筆談などをしながら丁寧にアプローチをされている。職員間で日々異なる利用者の状態を情報交換し、共有することで一人一人に合わせた対応に繋がっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを参考にして、一人ひとりに合った暮らし方を目指している。又、現状に合ったサービスの見直しをその都度行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の様子を観察し記録に残し、現状の把握に努めています。定期的にあセスメントを行い有する能力や課題や生活への思いについての現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護支援専門員と担当職員を中心にケアプランの作成を行っています。ケアの内容については、職員と情報交換と検討を行い様々な意見を取り入れたケアプランを目指して作成しています。	家族、関係者から情報を得たり、本人の日々の行動や表情から思い・意向の把握に努め、本人本位のプランを作成している。定期では6カ月に1回、モニタリングで状態変化がある時は随時、計画を見直ししている。利用者の日常生活における役割も計画書に取り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録から介護計画の見直しを行っています。又、業務日誌の活用、職員会議でのケアカンファレンスなどにより、情報を共有に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望や家族の意向をその都度確認しその時々ニーズに応える事が出来るよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	学校教育の職場体験を積極的に受入れ、地元の学生、地域の人々と、繋がりを大切にしています。近隣住民、町内方に気軽に来て頂ける体制にしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同じ敷地内にある医療機関と提携しており必要に応じて適切な医療を受けています。又、主治医への状態報告や指示受けを確実にし、医療機関との関係作りを努めています。	家族からの希望があればかかりつけ医を継続できる体制を整えている。入居時に伝達方法について検討され、受診後の状況報告も確実にし、家族が心配しないように配慮している。必要時は専門医の受診も適宜対応している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の健康管理について介護職員と看護師の連携に務め、看護師から必要な助言を貰っています。同じ敷地内に、病院、訪問看護ステーションの事業所があるので、24時間随時対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関の医師、看護師から、情報交換を積極的に行い、利用者様についての適切な処遇について話し合う機会を持つようになっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の方針については、利用者様の御家族様の考えを伺い、希望に添えるように医療機関と連携を図り、体制を整えています。	重度化や終末期の指針を定めており、入居契約時に説明し同意を得ている。状態変化に応じ、数回話し合いを行い、医療機関や主治医と連携を図り状況や家族の思いの変化に臨機応変に対応できるように支援されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師より、急変時対応の指導や事故発生に備えて、訓練等を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施し、通報設備等を使用して夜間火災想定避難訓練を実施しています。地元の消防団の了解を得て協力体制を構築しております。	災害対策のマニュアルが整備されており、随時確認できるようにしている。年2回の訓練の他に地震や水害の訓練も行う、避難場所の確認を行っている。夜間想定訓練も実施し、地元の消防団の協力も得られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	社内研修でプライバシーの周知に努めています。利用者様の状況に応じて、職員が全員が統一した対応が出来るよう個人の人格を把握し配慮した声掛けをし対応しています。	利用者への声かけについて申し送りや会議の場でその都度確認している。定期的に研修を行い、利用者一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーに配慮した声掛けの実践に取り組んでいる。広報誌などの発行物は事前に家族から掲載の同意を得ており、十分な配慮がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の意思表示をが出やすいように日々、声掛けや生活に努めています。利用者様の状態を把握して、状況に応じて職員が声掛けし自己決定が出来るように支援しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールはきめず、出来るだけ利用者様の意向に沿って、その人のペースに合わせて支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御本人の好みにあった衣服を選んで着て貰ったりしております。利用者様の状態に合わせて毎朝、整容、整髪のお手伝いをしています。理容師1か月に一度来苑され、利用者様の希望を聞きながら散髪されています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好きな食べ物や旬の食材を献立に取り入れております。調理、片付け等を利用者様と職員と一緒に出来る範囲で準備しております。時には、外食も計画し、利用者様に楽しんで貰っています。	栄養士が献立を作成し、調理、片付け等を利用者と職員と一緒に出来る範囲で準備し、食事が楽しみになるよう支援している。間食では果物を提供し、季節を感じる事の出来る取り組みをされている。野菜の下処理や茶碗ふきなど利用者と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量は毎日に記録にのこしており、必要な栄養・水分の確保が出来るように支援している。利用者様の状況に応じて、刻み食、とろみ食を提供しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを毎食後、実施しています。仕上げが必要な利用者様には、一部介助や全介助しております。歯ブラシでの磨きが難し方はスポンジブラシや口腔用ウェットティッシュを使用し口腔内の清潔に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者様の排泄パターン、またサイン等で、トイレの声掛け、トイレ誘導行っています。排泄のチェックリスクを毎日、記入しております。	排泄チェック表を活用し、一人一人に合わせた時間で誘導や声掛けをしている。日中は、トイレでの排泄を促し、身体機能に合わせて、ポータブルトイレを活用し、失禁や失敗が減少している。その方にあつた誘導や介助がされ、さりげない声掛けでトイレへ案内し、自尊心に考慮しつつ一人ひとりに合わせた支援がされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のチェックリストを毎日付けています。排便が3～4日無い場合は、医師や看護師に報告し、適切な処置をしております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	御本人の訴えがあればその都度でも、入浴出来るように支援しています。特殊浴槽・浴槽洗浄もあり、随時対応しております。	週2回の入浴支援をしている。入浴が出来ない時は清拭などの対応もされている。身体機能に合わせて特殊浴槽・浴槽洗浄があり、本人が希望すればいつでも入浴出来る体制作りがされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は適度な運動や活動を取り入れ、メリハリのある生活リズムを作る事を心掛け、夜間の安眠に繋げています。個々の体調に合わせて体に負担の無いように、日中でも静養時間を設けております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のファイルに薬の説明書を添付しています。変更等ある場合は、職員同士、申し送り事項し情報を共有して、介護記録に記入しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴や趣味などの情報収集を行いやりがいや喜びを感じて頂く事の出来る役割活動やレクリエーション活動を心身の状態に合わせて1日の活動に取り入れています。(健康体操・カラオケ・映画鑑賞・生け花など)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	お花見などの季節行事やドライブなどに出席しています。天気の良い日は、園庭に散歩に出掛けております。本人の希望で外泊や遠出する場合御家族の協力を頂きながら、実施しています。	買い物や外食行事に制限はあるが、感染対策をしっかりと行い近隣へ散歩やドライブに出掛けるなどの支援もされている。コロナ禍により外出が困難な時は季節に応じた飾り付けの作品作りを行ったり、室内運動会を開催しており、利用者の気分転換ができるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理出来る方は、多少のお金を持参し買い物や外出時、買い物を楽しんで貰っています。管理が困難な利用者様については職員管理するが、買い物の際等には、本人の理解と同意を得て、実施しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人の希望により、御家族に電話を会話を楽しんだり、直筆で御家族様に手紙を書き近況報告など行っています。利用者様の状態に応じて出来る限りで支援しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	太陽の日差しが沢山入る、明るい空間の施設です。季節の花を利用者様に生活けて頂いて、飾っています。気温に応じ、施設内の温度・湿度調整を行っています。コロナウイルス感染予防の為、空気清浄機も2台設置しております。	窓から自然な彩光が差し込み明るく、季節に応じた飾りつけがされており、季節が感じられる。ホールも広く観葉植物が飾られており、ゆっくり休憩できるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールで思い思いに過ごせるよう、スペースが広くなっており、他の方々とコミュニケーションをとりやすい様、テーブル、椅子、設置しています。外の景色を楽しめる工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人、御家族様と相談し、家具の配置等決めております。御本人の使い慣れた、品物を持参されて、住みやすい空間にしております。	自宅で使い慣れた家具や生活レベルに応じた家電等が持ち込まれている。家族の写真やクラブ活動で作成した物を壁に飾るなどして利用者一人ひとりが居心地の良い部屋作りがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人のADLや出来る事、出来ない事を把握し見守り、一部介助で自立出来るように支援しています。		